



Q

1 交通事故は「認知（見る）」→「判断」→「操作」の中のミスで起きますが、どの段階でのミスが一番多いのでしょうか？

- ①認知
- ②判断
- ③操作



Q

2 平成21年中の原付以上運転者（第1当事者*）による死亡事故（4395件）を年齢層別にみた場合、最も多いのは高齢者（65歳以上）ですが、2番目に多い年齢層は次のうちどれ？

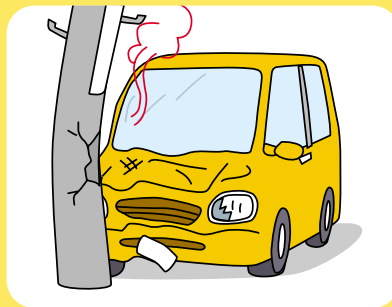
※第1当事者＝交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者又は過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者

- ① 16～24歳
- ② 30～39歳
- ③ 40～49歳
- ④ 50～59歳

Q

3 平成21年中の自家用軽乗用車（軽自動車）による交通事故は10年前（平成11年）の約何倍に増えているのでしょうか？

- ①約1.5倍
- ②約2倍
- ③約2.5倍
- ④約3倍



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736



Q1 解答 ①認知

<解説>

交通事故にみられるミスの特徴を分析した研究では、「認知」段階でのミスが最も多く、次いで「判断」、「操作」の順になっています。

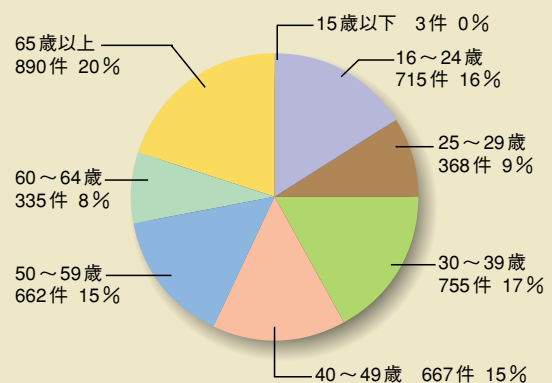
(財)交通事故総合分析センター資料によると、「交差直進者」を見落とす場合が多く、その理由は、「ぼんやり」といった運転への集中度の低下や、誰も出てくるはずがないという“思い込み”のための確認不十分、次に、家屋、他車の陰、天候不良による“見通し不良”です。ミスを防ぐためには、下記のことをこころがけましょう

- 運転するときには運転に集中する
- 信号や一時停止等のある交差点で、自分が優先であることが明らかであっても、必ず他車の確認をする
- 見通しが悪く誰もいないような交差点でも、「誰もいない」と思うのではなく「見えないけれど誰がいるかもしれない」といった防衛運転をする

Q2 解答 ②30～39歳

<解説>

平成21年中の原付以上運転者（第1当事者）による死亡事故件数を年齢層別にみると、高齢者（構成率20.3%）が最も多く、次いで30歳代（同17.2%）、16～24歳の若者（同16.3%）の順に多い。

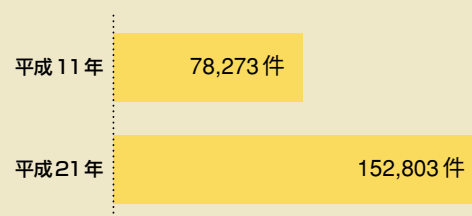


Q3 解答 ②約2倍

<解説>

平成21年中の自家用軽乗用車（軽自動車）による交通事故（第1当事者）は、15万2,803件で、全体の20.7%を占め、10年前（平成11年）の1.95倍に増えている。

●軽自動車による交通事故件数（第1当事者）



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736